

## 平成19年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子ども達の心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する事業を行いました。

スポーツ振興の分野においては「陸上競技支援」と「自然体験活動支援」を中心に、青少年の健全育成を目的とした事業を、食文化振興の分野では「食創会 安藤百福賞表彰」と「インスタントラーメン発明記念館運営」の事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告します。

### 1. 陸上競技支援事業

「未来ある子ども達にあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の要請に応え、走ることの楽しさと仲間とのふれあいの喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を昭和60年より支援しています。

#### (1) “日清食品カップ” 第23回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

- ・主催：日本陸上競技連盟
- ・後援：文部科学省他

各地の地区大会を経て、5月13日の高知県大会を皮切りに7月1日まで1ヵ月半にわたり、47都道府県で開催された都道府県代表を決定する予選大会と、7月27日、28日に大阪・長居陸上競技場で開催された決勝大会を後援しました。

世界のトップアスリートが一堂に会し開催された世界陸上2007大阪大会と同じ舞台となった決勝大会では、未来のオリンピック選手を目指す選手たちが熱戦を繰り広げ、好記録が続出しました。この大会の各種目優勝者21選手と指導者13名を、8月25日から開催された世界陸上2007大阪大会の観戦に招待しました。

また、決勝大会当日、全国の各都道府県から選ばれた47名の指導者に対して、少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」の表彰が行われました。これは、子ども達の心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えのもと、日頃から小学生の陸上競技の指導に取り組まれている指導者を表彰するもので、賞状と盾を贈呈しました。

昭和60年に「第1回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートしたこの大会は、23年の歴史を重ねて、子ども達にとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。また、本大会出場選手の中から、オリンピックや世界選手権で活躍する選手が数多く誕生しています。

本年8月開催される北京オリンピックにおいても、本大会出身者の活躍が期待されています。

- 【実施日】 ① 予選大会 平成19年5月13日(日)～7月1日(日)  
② 決勝大会 平成19年7月27日(金)～7月28日(土)
- 【場所】 ① 予選大会 全国47都道府県予選大会の開催競技場  
② 決勝大会 大阪・長居陸上競技場
- 【参加者数】 約30万人
- 【内容】 47都道府県で開催された予選大会に入賞メダルや参加賞を贈呈しました。決勝大会は、友好レース男女100m終了後、男女の5年100m、6年100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、4×100mリレーのほか、本大会から正式種目として採用されたソフトボール投と、陸上競技の「走・跳・投」の3要素の競技が揃って実施されました。大会の熱戦の様子は、9月1日(土)NHK教育テレビで全国に録画放映されました。
- 【事業費】 100,000,000円

(2) “日清食品カップ”第10回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

- ・主催：日本陸上競技連盟
- ・後援：文部科学省他

本大会は、発育途上の子ども達が、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成10年度からスタートし、本年度は10回という節目を迎えました。

全国47都道府県の代表チームに、開催地大阪から推薦された3チームを加えた計50チームが参加しました。

本大会の第1回大会に出場し、箱根駅伝等で活躍している佐藤悠基選手(東海大学)が、エジンバラ(英国)で開催された第36回世界クロスカントリー選手権大会に日本代表選手として出場するなど、夏開催の小学生陸上競技交流大会と同様に、長距離走においても、本大会の出場をきっかけに世界の舞台で活躍する選手が育ってきています。

- 【実施日】 平成20年3月22日(土)～23日(日)
- 【場所】 池田市・呉服小学校、万博記念公園特設コース
- 【競技内容】 クロスカントリーリレー(1区間1.5km 6区間 男女交互のリレー)  
友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル
- 【参加者数】 950名
- 【内容】 3月22日、池田市・呉服小学校にて開講式と研修会を開催しました。研修会では、男子100m日本記録保持者で甲南大学准教授の伊東浩司氏、日本陸上競技連盟指導者育成委員会の大畑好美氏らが、「小学生のための食事と栄養」について、3部構成にて講演会を実施しました。その後、インスタントラーメン発明記念館で見学・体験を行いました。
- 23日には、万博記念公園内に設けられた1周1.5kmの特設クロスカン

トリーコースにて、友好タイムトライアル男・女各1組のレースに続いて、参加50チームによる6区間でのクロスカントリーリレーが行われました。また、同じコースを使用して、前回大会の参加者を大きく上回る一般小学生450名が参加するクロスカントリーのタイムトライアルも行いました。

【事業費】 15,000,000円

## 2. 自然体験活動支援事業

自然体験は子ども達の体力だけでなく、創造力やチャレンジ精神、思いやりの心を育みます。当財団では「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」を主催し、子ども達の健全育成のための自然体験活動の推進と普及を支援しました。

### (1) 自然体験活動支援事業

「第6回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」

・後援：文部科学省、池田市、自然体験活動推進協議会他

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、選考の上、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体に各10万円の実施支援金を贈呈します。支援した団体から提出された活動報告書を審査し、学校団体部門は文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般団体部門は安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰しました。

また、今回から活動のスケールや成果の面では優秀賞には及ばなかったものの、企画内容がユニークであり、さらなる発展が期待できる団体に対し、「トム・ソーヤー奨励賞」を新たに設けて特別に表彰することとしました。なお、実施を支援した各団体の自然体験活動には、全国で7,116人の子ども達と指導者が参加しています。

また、3月15日に開催の表彰式には、学校関係者や自然体験活動指導者をはじめ250名の参加があり、女性として世界で初めてエレベスト登頂に成功した田部井淳子氏による、「偉大なる自然に感謝～主婦として、母として～」と題した講演会も実施しました。

### 【トム・ソーヤースクール企画コンテスト表彰団体】

【学校団体部門】

・ 文部科学大臣奨励賞（賞金100万円、副賞チキンラーメン1年分）

団体名 大町市立第一中学校探研部（長野県）

企画名 「手づくりカヌーによる仁科三湖探研」

・ 優秀賞（賞金50万円、副賞チキンラーメン半年分）

団体名 甘楽郡甘楽町立新屋小学校（群馬県）

企画名 「ぼくらの ふるさと 学び隊…大地と水と大空と…豊かな自然の中でがんばるぞ！」

#### [一般団体部門]

- ・ 安藤百福賞（賞金100万円、副賞チキンラーメン1年分）  
団体名 広島県山岳連盟（広島県）  
企画名 「わんぱく登山部」
- ・ 優秀賞（賞金50万円、副賞チキンラーメン半年分）  
団体名 シニア自然大学 CONE 枚方・交野地区実行委員会（大阪府）  
企画名 「枚方子ども自然教室」

#### (新設) トム・ソーヤー奨励賞（副賞チキンラーメン半年分）

- ① 団体名 名古屋大学博物館（愛知県）  
企画名 「地球教室 ー河原の石で作る石包丁ー」
- ② 団体名 奈良・自然への感動を伝える会「ならなぎ」  
企画名 「親子自然観察教室」

#### 【表彰式】

- ・ 開催日 平成20年3月15日(土)
- ・ 場所 インスタントラーメン発明記念館
- ・ 講演会 田部井 淳子 氏（登山家）  
演題「偉大なる自然に感謝～主婦として、母として～」

#### 【事業費】 10,244,530 円

#### (2) 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウを満載しているホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された平成14年にスタートしました。安藤財団では、「自然体験.com」を通じて父母の皆さんや指導に携わる方々へ自然体験に関する情報を提供し、子ども達の生きる力を育む自然体験活動の輪を広げています。

また、このホームページを通して、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や結果報告も伝えています。本年度の実施支援団体の活動状況を伝える速報レポートや活動報告書も掲載しており、その件数は117件となります。

【開設日】 平成14年4月1日

【アドレス】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 6,564,000 円

### 3. 食文化支援事業

「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励並びに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発についての支援・普

及活動を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に、平成8年に「食創会」が創設されました。

当財団が主催する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する独創的な研究者、開発者ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。前回から新たに設けられた「発明発見奨励賞」は、大学等の若手研究者や中小企業の開発者を受賞対象としています。「安藤百福賞」は食文化振興の中心的事業として、本年度で12回目を迎えました。

今回、2年ぶり4回目の大賞に東京大学大学院の森 憲作教授の「食べ物の香り識別の脳神経機構の研究」が選出されるなど、あわせて5名が受賞しました。

2月14日、政財界をはじめ300名の出席により表彰式を行い、あわせて「おいしさを科学する」をテーマに講演会を開催しました。

#### 【平成19年度（第12回）安藤百福賞受賞者】

##### (1) 安藤百福賞 大賞（副賞：賞金1,000万円）

『食べ物の香り識別の脳神経機構の研究』

森 憲作 氏（東京大学大学院 医学系研究科 細胞分子生理学分野 教授）

##### (2) 安藤百福賞 優秀賞（副賞：賞金各200万円）

・『がん予防に有効な機能性食品の開発』

西野 輔翼 氏（立命館大学 COE 推進機構 特別招聘教授）

・『硬さ制御技術（凍結含浸法）を用いた高齢者・介護用食品の開発』

坂本 宏司 氏（広島県立総合技術研究所 食品工業技術センター  
食品加工研究部長）

・『食品由来ペプチドの機能解析を基盤とする有効利用と新しい生体調節機構の解明』

吉川 正明 氏（京都大学大学院 農学研究科 食品生理機能学分野 教授）

##### (3) 安藤百福賞 発明発見奨励賞（副賞：賞金100万円）

・『長期保存が可能な「パンの缶詰」の開発、および循環型社会対応の「保存食リユースシステム」の構築』

秋元 義彦 氏（株式会社パン・アキモト 代表取締役）

#### 【安藤百福賞表彰式】

・開催日 平成20年2月14日(木)

・場 所 ホテルニューオータニ(東京)

#### 【記念講演会】 テーマ：「おいしさを科学する」

・大賞受賞講演

森 憲作 氏（東京大学大学院 医学系研究科 細胞分子生理学分野 教授）

『食べ物の香り識別の脳神経機構の研究』

・特別講演 1

山本 隆 氏（大阪大学大学院 歯学研究科 COE 特任教授）

「おいしさと健康の脳科学」

・特別講演 2

都甲 潔 氏（九州大学大学院 システム情報科学研究院 教授）

「味を目で見る、においを創る」

【実施費用】 26,387,772 円

#### 4. インスタントラーメン発明記念館運営事業

当財団が運営するインスタントラーメン発明記念館は、平成11年にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館しました。平成16年11月には、従来のおよそ2倍の規模に拡張新築し、展示と体験工房を充実させて、インスタントラーメンの発明から産業として世界に広がった歴史を通して、発明・発見の大切さやすばらしさを伝える体験型食育施設として、高く評価されています。平成19年度は、46万人の来館者がありました。

この記念館の運営事業を行いました。

【施設概要】

- ・ 敷地面積 : 3,888㎡
- ・ 延床面積 : 2,919㎡
- ・ 展示ホール : 1,095㎡
- ・ セミナーホール : 303㎡

平成19年1月5日急逝しました当財団創設者で日清食品創業者 安藤百福の業績を顕彰する『安藤百福の軌跡』コーナーを新たに設けました。

不撓不屈の人生を歩んだ安藤百福が、多くの人々に語りかけてきた言葉を語録としてまとめた「安藤百福かく語りき」や、昭和39年より一年の計を元旦に毛筆でしたためた年頭所感を展示し、あわせて、これまでの業績に対する数々の叙勲や表彰状、日頃愛用のゴルフクラブやサングラス等も展示しています

#### 5. 青少年の健全育成を目的とする支援・協賛事業

- (1) 「次世代に繋ぐ豊かなスポーツ環境づくり」をテーマに広島県で開催された「生涯スポーツコンベンション2008—人・スポーツ・未来—」（主催：文部科学省他）に協賛しました。

【実施日/場所】：平成20年2月15日(金) リーガロイヤルホテル広島

【協賛金額他】：500,000 円

(2) 大阪教育大学附属高等学校池田校舎が実施する中国交流事業の支援を行いました。  
これはユネスコ共同学校である同校の「国際感覚を持ち、経済、文化的リーダーシップのとれる人材育成」を目指す教育活動を支援したものです。

【実施日】：平成19年11月4日(日)～11日(日)

【交流参加校】：大阪府立北淀高等学校、大阪羽衣学園高等学校（ユネスコ共同学校）

【交流相手校】：中国人民大学附属中学校

【後援金額】：3,000,000円

(3) 「第10回池田・猪名川マラソン大会」を中心に開催された「IKEDA・スポーツフェスティバル」（主催：IKEDA・スポーツフェスティバル組織委員会、後援：池田市他）を後援しました。関西エリアを中心に、小・中学生約1,000人が参加しました。

【実施日・場所】：平成20年3月16日(日) 池田市猪名川運動公園

【協賛金額他】：300,000円

以上